



拓伸会創業 70 周年記念式典

6 月①のごあいさつ

山内公認会計士事務所

2023 年 6 月 1 日(木)

三つの工場、二つの偉業(その意義)

私は、拓南製鐵の創業者古波津清昇氏の書かれた“鐵の道”をはじめ多くの著書を読ませていただいております。そして、拓南製鐵の三つの工場と二つの偉業(その意義)に強い印象を受け、引きつけられました。

今から 62 年前、拓南製鐵の創業の地、第一の工場は、“壺川工場”です。この壺川工場で、沖縄の歴史上最初の鐵が生産されました。これは拓南製鐵の第一の偉業(沖縄地域の再生の足がかり)です。

鐵の生産と同時に“拓鐵興琉”という社是、企業理念が生まれ、拓南製鐵の歴史が始まりました。

それから、17 年後(45 年前)、第二の工場“浦添工場”に移転、ライバルの共栄製鋼を吸収し、沖縄で唯一の製鐵工場として、拓南製鐵の事業は大きく発展することになりました。

この浦添工場の跡地には、70 周年の記念式典を行っている“国立劇場おきなわ”が生まれております。

第三の工場は 1995 年(28 年前)に沖縄市海邦町に建設された“中城工場”です。

当時の最先端技術で装備した電炉工場が完成しました。

拓南製鐵の企業理念、“拓鐵興琉”にふさわしく、鉄を生産し、地域を振興して、事業を拡大する使命の下、新製品の開発と多様な鐵製品の生産を行っております。

当時、日本の産業力の中で、沖縄県は人口 1%にも満たない全国比 0.6%ぐらいでした。その時、電炉生産で全国比 1.1%を達成しました。これは 1%経済の目標を達成した、拓南製鐵の第二の偉業(鐵の生産から 30 余年で産業化)です。

これから先を考えますと、拓南製鐵の八木社長や松井専務、知念専務、山内常務といつも話をしている 10 年後の中城工場のイメージはできます。しかし、20 年後、いや 100 周年を迎える 30 年後の“第四の工場”は、今、会場に来られている新しい炎、若い世代のご活躍に心から期待いたしたいと思っております。

拓伸会創業 100 周年には、三つの工場、二つの偉業に続く、
第四の工場の稼働、三つ目の偉業の達成
に心から期待しております。